

終了報告書

情報理工学院 数理・計算科学系 数理・計算科学コース 2年

1, AEARU コンピューター・サイエンス・サマープログラム(北京大学)

2, 留学前の準備

・留学前の準備

留学情報の入手方法: 留学センターに伺いました

・専門分野・語学の準備方法

英会話の本を用いて、例文を覚えました

・ビザ取得方法

東京の中国ビザが取得できる場所へ行き直接ビザを申請しました

X-2 ビザで 8400 円かかりました

https://www.visaforchina.org/TYO_JP/aboutus/281030.shtml

*事前に持って行く書類を確認して行くべきだと感じました

3,4 留学中の感想(自分自身の成長を含めて)

・授業について

2つのコースを履修しました。Topics in fundameations of database と Compact data structures for big data の2つの授業を履修しました。どちらも内容のレベルは高かったです(海外の大学の修士の内容であった)。授業のスケジュールは、海外の大学院の1セミスターの内容を約8日間で行っていたため大変でした。また、論文を多く配り、それについての解説の授業であったため、大変でした。Compact data structures for big data の授業は、宿題3つ(数学を用いたもの)、Project(プログラミングの実装)と Term Paper(最終レポート)等と課題が多かったです。また、試験も実施(約1時間)されました。教授が中国人であったこともあり、中国語を使っての説明を行う時も度々ありました(9割は英語だった)。授業の受講に際しては、基礎レベルではなく専門レベルの知識を持った上で授業を受けるべきだと感じました。英語力もある程度、高い状態で参加しないとついていくのが困難だと感じました。他にも、日本の講義に比べて、単位を取るのが大変であったため、ある程度覚悟を持ってサマースクールに参加するべきだと感じました。また、仲良くなった中国人の友達にも聞いた話ですが、中国は勉強をすると裕福になりやすい国だと聞きました。他に

も、北京大学の学生でもっと自分が勉強をして中国を発展させたいという意識を持った学生もいました。そのため、勉強に対しての姿勢が、日本と少し違うように感じました。(戦後の日本が高度経済成長に向けて勉学に励んだ時代をかいまみた気分でした) 授業の履修にあたって、様々な困難はありましたが、最後まで授業に出席できたのと、宿題の提出ができたのは、クラスメートのTA(北京大学の修士の学生)とクラスメートの1人(ドクターの学生)が最後まで勉強の面倒を見てくれたためでした。英会話を行う際に、少しわだかまりはありましたが、勉強を教えてくれと自分から主張をすると親切に対応してくれる人が多かったため、主張をすることの大切さを学びました。



北京大学の有名な校門



北京大学の自習室の中

・生活について

初日に、北京大学の寮に入寮しようとした時に手続きに時間がかかりました。スタッフは英語を少し話すことはできますが、時々何を言っているのか聞き取れないことがありました。また、到着してから知りましたが、中国の寮やホテルに泊まる際には、先にデポジットを払わないといけないそうです。自分は最初のデポジットとして、500元払わされました。最終的には、そのお金は全て最終日に返ってきました。(友達の話によると、シーツが少し汚れていただけで罰金を取られたとは聞きました) 基本的に、部屋の物の損失や汚れがなければ返金されると思います。次の日に、新太階(北京大学の構内)へ行き、サマープログラムの手続きをしに行きました。到着して最初に、サマープログラムに参加できないとスタッフに言われました。というのも、本来のサマープログラムの参加は7/2からだったそうです。結局、メールを見せて、参加できると

言われた等の話をしたところ、参加することが出来ました。また、7/23にサマープログラムに参加した私はサマープログラムが終盤だったようです。こういった経緯から、留学生とのコミュニケーションを図る機会(コンサートや、万里の長城への旅行)はもうすでに終わっていました。しかし、留学中に国際交流を図りたかったこともあったので、国際交流できる場所はないか?と聞いたところ English Café という場所があると聞き、その会に参加しました。English Café では、8人ほどしか人はいなかったですが、国際交流を行いたい人が集まっていたため交流をしやすかったです。ここで、何人かの友達ができました。他にも、中国の文化や中国語(自己紹介程度)を教えてもらえました。この交流会への参加からも、中国では自己主張が大事だと感じました。自己主張をすれば、親切に対応をしてくれる人が多かったです。ここで、日本との文化の違いを感じました。

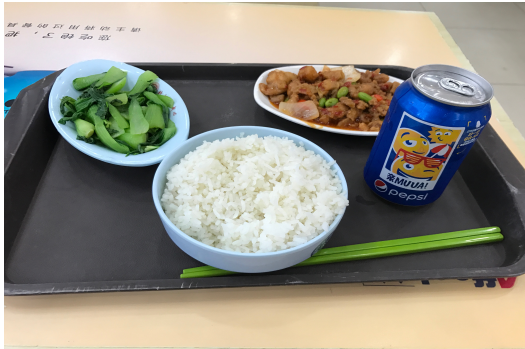
サマープログラムの中盤で、中国の生活に慣れなく、皮膚に湿疹のようなものができたので、北京語言大学病院国際医療部という中国の病院へ行きました。北京語言大学病院国際医療部は、日本語が通じるスタッフ(日本人のアルバイト生もいる)がいる病院のため、診察も日本語で行うことができました。

国際連携課のおかげで、清華大学に留学を行っている東工大の学生と交流ができました。交流を通して、清華大学の中にも入りました。北京大学と清華大学の建物の違いは、北京大学は古い中華風の趣深い建物でしたが、清華大学はアメリカの大学のような建物でした。近い大学であるのにも関わらず、キャンパスの中の違いがあり驚きました。

サマープログラムの終盤では、寮に泊まる日がすぎていると言われ、一回寮に入るできない事態がありました。最終的に、寮のスタッフに北京大学のスタッフに電話をしてもらい解決しました。寮のスタッフを北京大学のスタッフに対して電話をしてもらうのに、15分程口論をしました。その際に、面倒くさい仕事を引き受けたくない文化があるというのを感じました。そのため、粘り強く主張をする(向こうが面倒臭く思う)方が動いてくれると感じました。

サマープログラムを通して相手の国の事務手続きがいい加減なことを感じたため、今後は大切な事務手続きを行う際には再度確認のメールを送るべきだと感じました。

全体を通して、自分は中国語をあまり知らずにサマープログラムに参加しましたが、中国語ができないと生活を行うのが大変であると感じました。



学食のご飯の様子

・旅行について

頤和園、天安門、万里の長城へ行きました。頤和園は、北京大学から近く行きやすかったです。大きい湖が広がっており、中国のスケールの大きさを感じました。天安門も電車でいけるため行きやすかったです。警備が厳重にされており、パスポートがないと入れませんでした。また、故宮は1日10万人までしか入れないという制限があり、15時30分に行った私は入れませんでした。万里の長城は、北京大学の東門の駅から積水潭駅へと行き、そこから徒歩で徳勝門というバス停へ行き、バスに乗りました。その後2時間して、万里の長城へと辿りつきました。万里の長城は、大きく、景色も表現できないような絶景が広がっていました。観光では、PM2.5が夏はひどくなく(友達に聞いたところ、夏は規制して工場を止めている)綺麗な景色を楽しめました。



頤和園



万里の長城

・自分自身の成長

日本にいた時に比べ、自己主張をすることの大切さを学びました。日本で思う、これって言いすぎなんじゃない?と思う以上に言った方が、事態がうまく

いくように感じました。また、サマープログラムに参加した当初は、日本とは違う環境に困惑を感じましたが、最後はこのくらいのことかって思う精神状態に変わっていったため、精神的に強くなったと思います。

5, 留学費用

渡航費: 6万7000円(往復代)

プログラム参加費: 0円

生活費: 2万5000円程 住居費: 0円 保険料: 8700円 奨学金: 6万円

6, 留学先の住居

住居: 寮 ルームメイト: なし

7, 留学先の語学状況

留学期間中は英語を使用。2年前に受けた、TOEICは670点。1年前に香港へ2週間語学に関するサマープログラムへ参加したが、授業に受講にあたって英語力の支障があった。日常会話も、中国人の多くは会話のスピードが速く、発音が違ったりする場面が多く、英語でのコミュニケーションで、戸惑うことが多くあった。

8, 単位認定

行わない

9, 留学経験を今後、どのように活かしたいか

私は、4月から金融機関に就職します。その際に、中国という巨大なマーケットは欠かせない存在だと思っています。そのため、今回のプログラムを通して得られた中国の文化の理解や中国での人脈を活かして働きたいと思っています。また、BigDataについて講義は、今後の勉強やこれから働く業務にも用いる可能性が高いので、その際にも活かしていきたいと思っています。

10, 留学先で困ったこと

3,4で話した通りです。

特に、事務手続きに間違いが多かったことです。

11, 留学を希望する後輩へのアドバイス

英語はあまり通じない(北京大学の学生等は除く)と思ってサマープログラムに参加すべきだと思います。日常生活を円滑に過ごすために、基礎的な中国語を知った状態で参加すべきだと思います。また、講義は宿題も多く内容もハードです。そのため、基礎レベルというよりは、前提知識をある程度持った上で講義に参加した方が講義全体の内容を把握しやすいと思います。

現地の学生に聞いた話ですが、サマープログラム中は北京大学や清華大学の学生は夏休み中であるため、基本的に帰省している人が多く、学内で日本人は少ないようです。そのため、日本人がいなく不安も出てくると思うので、サマープログラムに参加する際に学内の学生2人で参加をすることを勧めます。

サマープログラムは、7月の初旬に始まっており、プログラムの初めの方に国際交流を行う機会が多く設けられています。そのため、このプログラムに参加をするのに国際交流も考えている人は、7月の初旬に参加を行うことを勧めます。

最後に、事務手続きの間違が多かったので、プログラムに参加する前に事務手続きの確認メール(プログラムを受ける日、寮を出る日)を送って返信を貰うべき(返信がなければしつこくメールをするべき)だと思います。

(参考)

北京大学 ~サマープログラム参加にあたって~

1, 空港から大学までの行き方

電車： 北京首都国際空港(機場線)→三元橋(10号線)→海淀黄荘(4号線)
→北京大学東門 (全体で 30 元かかりました)

タクシー: 130 元程かかりました。タクシーの運転手は英語が全く通じないので、中国語で住所を書いて見せるといいです。

2, 寮のデポジット制

寮に入る際に、500 元最初にデポジットとして支払わせられました。このお金は、物品の損失や部屋を極端に汚すなどをしなければ、最終日に返金されます。

3, 銀行

両替が必要な場合は、中国銀行を勧めます。中国銀行は手数料が不要なため勧めます。場所は、北京大学の南西門を出たすぐの場所にあります。両替をするのに 30 分以上待たせられました。

4, 病院

軽い怪我や病気をした際には、北京語言大学病院国際医療部を勧めます。なぜならば、日本語の通訳をつけて診察を受けることができるためです。以下が URL です。<http://fantasia.icq.to/ulbeijing/index.php?e=14>

大きい怪我や病気の場合は、現地の人に聞いたところ、北京大学付属病院が良いそうです。その際は、英語で診察を受けることができるそうです。

5, 情報規制について

中国では、情報規制のため基本的に Google, LINE, Twitter, Instagram(自分が行った時 facebook は使えました)は使えません。しかし、東工大のポータルで VPN に接続をすると、すべて使うことができるようになります。しかし、東工大の VPN は携帯端末には対応していないため、携帯で VPN を使いたい場合は、apple ストアから携帯の VPN 接続をするアプリをダウンロードすることを勧めます。中国のサイトで Google に変わるのが Baidu, Google map に変わるのが 百度地図、LINE に変わるのが WeChat です。何かあった時は、これらのサイト

やアプリを使うと良いと思います。(特に、WeChat はダウンロードすることを勧めます)

6, クレジットカード

クレジットカードが使える場所は少なかったです。中国では、アプリでの決済の方が進んでいました。アプリ決済を行うアプリとして、Alipay があります。出国する前にダウンロードしておくのを勧めます。

7, 自転車について

中国は国土が広く移動で歩くのは大変です。そのため、自転車があると便利です。また、北京ではレンタルできる黄色い自転車がたくさんあります。その自転車を使うには、ofo(英語版)のアプリをダウンロードすることで使うことが可能となるため、ダウンロードをすることを勧めます>(*デポジットがかかるかもしれない)

8, 旅行

頤和園

頤和園への行き方は、北京大学東門の駅から4号線に乗り、西苑 or 北宮門に降りると着きます。

天安門・故宮

天安門・故宮への行き方は、北京大学東門の駅から4号線に乗り、西単へ行きます。そこから、1号線に乗り換え、天安門東に降りると着きます。注意事項としては、天安門は警備が厳しいため身分証のチェックが必須とされ、パスポートが必要であること。また、故宮は1日10万人を超えると、入れないという規制があるため、故宮に行くなら早めに到着をすることを勧めます。(特に、土日)

万里の長城

北京大学の東門の駅から4号線に乗り、西直門へ行きます。そこから、2号線に乗り換えて積水潭駅へと行きます。そこから徒歩で徳勝門というバス停へ行き、バスに乗り2時間ほど経つと、万里の長城へと辿りつきます。注意することは、行きのバスは12時まで、帰りのバスは17時までということです。